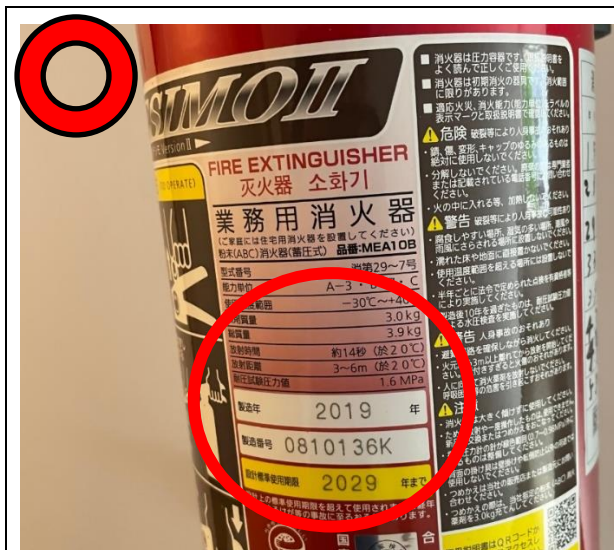


催し開催時の防火安全チェックシート

1 消火器の準備・発災時の対策

- ☐ こんろ、調理器具、携帯発電機などを使用する場合は、変形や錆びがない消火器を準備する。粉末消火器は、容器を振るなどして薬剤の固着がないか確認する。
※消火器とは、規格省令に規定する消火器(住宅用消火器を除く。)でありエアゾール式簡易消火具は該当しません。
- ☐ 避難通路や防火水槽・消火栓等消防水利の妨げになる場所には設置しない。
- ☐ 災害発生時の避難誘導や消防隊等の誘導について事前に担当者を定めるなど計画すること。
- ☐ 傷病人発生時における救護所を確保すること。
- ☐ 強風等で露店やテントが倒壊・飛散しないように固定する。
- ☐ 電源は、仮設の電気引き込み工事を実施するなど商用電源を使用する。
(商用電源を使用できない場合は、必ず3をチェックしてください。)



- ☐ 消火器はサビ、変形がなく使用期限内のものを準備してください。



- ☐ 避難の妨げにならない場所に設置してください。(標識があるとさらにわかりやすくなります。)

2 LPガスボンベ・対象火気器具等の取扱い

- ボンベは、火気から離れた直射日光の当たらない通気性の良い場所に設置する。
- ボンベは、安定した場所に転倒しないよう設置するとともに観客席等と距離を取る。
- コンロの周囲は可燃物から15cm以上、上方1m以上の距離を保つ。
- 対象火気器具等の周囲は常に整理及び清掃に努める。
- ゴムホースは適正な長さで、ひび割れ等の劣化のない専用のものを使用する。
- 対象火気器具等とホースの接続は確実に、ホースバンドで固定する。
- 1本のボンベから2つ以上の機器に分岐しない。(それぞれに開閉栓を設けた場合を除く。)



□ 直射日光を避け、平らで安定した場所に固定してください。



□ 樹脂製のテーブルは可燃物です。やむを得ず不燃ボードを敷いて対応する場合は、台全体を不燃ボードで覆うようにしてください。



□ メニュー表や電気配線が火気器具の上方1、周囲15cmに重なっていませんか。



□ 防災シートであっても火気器具の上方1m、周囲15cmに重ならないようにしてください。

	
□ 不燃ボードをつい立にしても、火気器具の上方1m、周囲15cmは可燃物から離してください。	□ キッチンカー内も火災危険は同様です。火気器具の上方1m、周囲15cmを目安に可燃物から離してください。

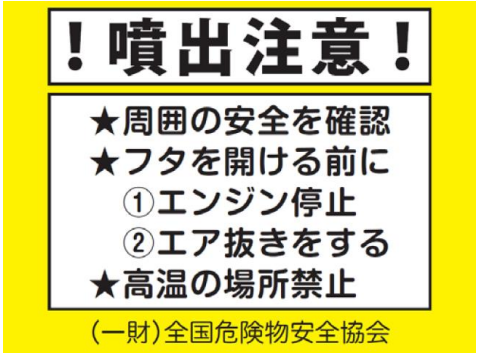
3 ガソリン等の貯蔵・取扱いについて

(1) 保管・取扱いの一般的な注意事項

- ガソリン等の保管又は取扱い場所では、みだりに火気を使用しない。(ライター、たばこ)
- 容器は消防法令に適合した金属製容器等を使用し、キャップを確実に締める。
- 容器は、火気や高温部から離れた、直射日光の当たらない通気性の良い床面で保管する。
- ガソリン等を保管又は取扱う場合は、観客席等から十分に安全な距離を取る。
- 開口前の圧力調整弁(圧抜き)の操作等は、容器の取扱説明書等に従い適正に行う。

(2) 携帯発電機の使用

- 携帯発電機の運転中の燃料補給は絶対に行わない。
- イベント開催中は会場内での給油は行わない。やむなく、給油をする場合は、周囲に火気のないことを確認し、観客席等から十分に安全な距離を取る。

	
□ ガソリン携行缶は直射日光や、発電機からの高温の排気を避けられる場所に保管してください。	□ ガソリン携行缶は、使用方法をよく確認し、使用しない場合は持ち込まないようにしてください。

⚠ ガソリン携行缶の危険性を動画で確認してください。

平成25年8月、京都府福知山市の花火大会会場において、ガソリン携行缶の取扱いが不適切であったために、3名が死亡、50名以上が重軽傷を負いました。

事故の原因は、直射日光と発電機からの排気ガスにより、ガソリン携行缶の温度が上昇していたにも関わらず、エア抜きをせずにメインキャップを開放したことにより、ガソリンが噴出し、露店の火気により引火したものです。

実験 ガソリン60℃で携行缶から噴出(東京消防庁) 2分45秒

<https://www.youtube.com/watch?v=SNwngOudpoc>



実験 減圧せず開放したら噴出(国民生活センター) 1分30秒

https://www.kokusen.go.jp/douga/data/vn-20210218_2.html



4 電気器具等の取扱い

- ☐ 熱を発生する照明器具等を可燃物の近くに設置していない。
- ☐ 照明器具、スイッチ、テーブルタップ等の充電部が露出したり、破損していない。
- ☐ 照明器具やコード等はしっかり固定され、踏みつけられたり引っ張られたりしていない。
- ☐ 定格電流の使用範囲内で使用している。
- ☐ 水気のあるところでは、防水対策をしている。
- ☐ 使用しないプラグは抜いており、ほこりや汚れがついていない。

※ _____部は、主催者等のチェック項目です。